

緑園地域の地震発生と被害想定

緑園 6 丁目災害時要援護者
地域支え合い活動委員会

地震発生想定

日本列島周辺では、過去 20 年間に震度 5 以上の地震は 310 回、年平均 15.5 回発生しています。横浜市はで 30 年以内に震度 6 弱の地震発生確率は 82%と想定されています。想定地震として、①元禄型関東地震、②首都直下地震、③南海トラフ巨大地震、④慶長型地震を挙げています。

この内、泉区にとって被害想定が大きいのは、①の元禄型関東地震です。泉区内で震度 6 強～6 弱の揺れが想定され、緑園地域はハザードマップでは 6 弱となっています。

神奈川県全域、東京にも大きな被害になり、救助・復旧活動は困難に。ライフラインは、いずれも広域で機能支障が。緊急道路、鉄道も大きな支障が発生すると想定されています。

6 弱



【震度 6 弱】

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。



耐震性が高い



耐震性が低い

泉区内の被害

建物の全半壊 6,239 棟、火災焼失 3,339 棟、死者 100 人、負傷者 742 人、避難者 22,455 人、上水道断水世帯 約 19%、停電世帯 約 15%、電話不通世帯 約 2%、都市ガス停止世帯 約 58%

木造住宅の被害(耐震基準を考えると)

1978(昭和 53)年の宮城県沖地震での被害を受け、1981(昭和 56)年 6 月に建築基準法改正。新耐震基準と言われている。新基準では、人命に危害を及ぼすような倒壊などの被害を生じないことが目標とした。建物は壊れても、人の命は救われる設計で、人命最優先基準で、「逃げる時間を確保する」建物という考え。

木造住宅においては、1995 年の阪神・淡路大震災の反省から、2000(平成 12)年 6 月に耐震基準に大きな変更がされた。①地盤に応じた基礎、②接合部・③耐力壁のバランス強化と言った変更・義務化。

ところが、2016(平成 26)年の熊本地震木造では、新基準と 2000 年基準に大きな差が判明。新基準だが、2000 年基準以前の建物の被害状況は、倒壊 8.7%、大破 9.7%、軽・小・中破は 61.2%、無被害 20.4%。

(2000 年基準の住宅も倒壊・大破が 10%ほどあり、今後基準変更も想定される、との意見も)

緑園地域の木造住宅は新基準(1981 年 6 月～)で建築されているが、2000 年基準(2000 年 6 月～)以前のものが大半を占めている。